

◆「いばらき能」連携事業

能 NOH 体感講座

写真: 能「船弁慶」より

伝統世云能、出合の楽しみ

「挑戦！はじめての能」

「謡」「舞」「能面」「装束」「楽器」・・・能を構成するそれぞれの要素について、実際に体験していただくことにより能への理解を深めていただくための講座です。

◆開講日及び内容

第1回／2月4日(日) 午後2時～午後4時

「能の謡と舞って面白い！」講師: 山本章弘(能楽師観世流シテ方)／林本 大(能楽師観世流シテ方)

第2回／2月10日(土) 午後2時～午後4時

「能面と装束を見てみよう！」講師: 山本章弘／林本 大

第3回／3月3日(土) 午後2時～午後4時

「能に出てくる楽器をやってみよう！」講師: 古田知英(能楽師幸流小鼓方)／上田慎也(能楽師金春流太鼓方)

◆会場

茨木クリエイティブセンター2階・多目的ホール 茨木市駅前四丁目6番16号 ☎072-624-1726

◆対象・定員

各講座とも小学生以上、20人。1回だけの参加も可。

* 第1回、第2回の講座では、足袋または靴下をご持参ください。

◆受講料

1回500円

◆お申込み・お問合せ

(公財)茨木市文化振興財団・文化事業係 ☎072-625-3055(午前9時～午後5時)

* 12月10日(日) 午前9時から電話予約開始。先着順に受付し、定員になり次第締め切ります。

* 受講料は、開講日当日に会場受付でお支払いください。

◆主催: 公益財団法人茨木市文化振興財団 ◆制作: 公益財団法人山本能楽堂／三栄企画 ◆後援: 茨木商工会議所／茨木市観光協会

関西から

文化力
POWER OF
CULTURE



【講師】 山本章弘 (やまもと・あきひろ)

昭和35年11月生まれ。幼少より父、故山本眞義に師事し、昭和58年、故25世宗家観世左近に入門。昭和63年独立。現在26世宗家観世清河寿に師事。3歳にて初舞台。主な披曲は「石橋」「猩々乱」「道成寺」「望月」「翁」「安宅」「砧」など。海外公演は、米・ワシントン、インド、オーストラリア、イタリア、フランス等に参加。公益社団法人能楽協会理事。重要無形文化財保持者総合指定。日本能楽会々員。関西大学能楽部講師。観世流発祥の地・奈良県結崎にある川西小学校の総合学習の能楽講師をつとめるほか、「アートによる能案内」「能とあそぼう」など、子ども達へ能楽の普及に努める。公益財団法人山本能楽堂代表理事として、「とくい能」「上方伝統芸能ナイト」などの新事業を立ち上げ、あらゆる世代に向け新たな能の魅力を伝えるべく、積極的に普及活動を行っている。「大阪文化祭奨励賞」「なにわ大賞大阪21世紀協会賞」などを受賞。

●山本能楽堂公式ホームページ<http://www.noh-theater.com/>

茨木市文化振興財団第222回公演

[12月10日予約開始]

いばらき能 — 「船弁慶 前後之替」

- ◆平成30年3月11日(日)午後2時開演(午後4時30分終演予定) ◆茨木クリエイティブセンター・センターホール
- ◆[全席指定]一般3,000円/65歳以上、障害者及びその介助者2,500円/青少年(24歳以下)1,000円
- ◆演目 ◎見どころ解説 ◎仕舞「枕之段」山本章弘 ◎お囃子解説 ◎狂言「附子」善竹隆平
◎能「船弁慶」山本章弘

【船弁慶あらすじ】

平家追討に功績をあげた源義経でしたが、頼朝に疑惑を持たれ、鎌倉方から追われる身となります。義経は、弁慶や忠実な従者とともに西国へ逃れようと、摂津の国大物の浦へ到着します。義経の愛妾、静(しずか)も一行に伴って同道していましたが、女的身で困難な道のりをこれ以上進むことは難しく、弁慶の進言もあって、都に戻ることにしました。別れの宴の席で、静は舞を舞い、義経の未来を祈り、再会を願いながら、涙にくれて義経を見送ります。

静との別れを惜しみ、出発をためらう義経に、弁慶は強引に船出を命じます。すると、船が海上に出るや否や、突然暴風に見舞われ、波の上に、壇ノ浦で滅亡した平家一門の亡霊が姿を現しました。なかでも総大将であった平知盛(とももり)の怨霊は、是が非でも義経を海底に沈めようと、薙刀を振りかざして襲いかかります。弁慶は、数珠をもみ、必死に五大尊明王に祈ります。その祈りの力によって、明け方に怨霊は調伏されて彼方の沖に消え、白波ばかりが残りました。

【見どころ】

誰もが知る義経や弁慶、静御前が登場するわかりやすい能で、弁慶を中心に物語はテンポよく進みます。

この曲の前後のシテは、美しい白拍子と恐ろしい怨霊という、まったく異なった役柄となっています。優美さと勇壮さの対照で織りなされ、前場には優美な舞が、後場では薙刀を振るう荒々しい舞働が用意されており、謡い・囃子の強弱、緩急も全く異なったものとなります。変化に富む大変劇的な曲です。

また、舞台が大物の浦の船宿から大海原へ展開していく様子は、作り物の舟だけで見せていきます。ここは、アイの船頭の腕の見せ所で、船をこぎながらのワキとのやりとりや嵐が始まってからの棹さばきなど、本当に荒れ狂う海が見えるかのような所作が見られます。

◆お申込み・お問合せ

茨木市文化振興財団・文化事業係 ☎072-625-3055(午前9時～午後5時)
〒567-0888 茨木市駅前四丁目6番16号 クリエイトセンター1階

◆クリエイティブセンター(茨木市市民総合センター)茨木市駅前四丁目6番16号/072-624-1726

